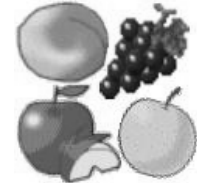




平成22年度 果樹情報 第11号

(平成22年8月19日)



福島県農林水産部研究技術室

1 気象概況 (8月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は、1半旬が29.1℃で平年より3.3℃高く、2半旬が28.5℃で平年より3.3℃高く、3半旬が27.3℃で平年より1.8℃高く経過しました。この期間の降水量は31.2mmで平年の45%でした。

2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

8月16日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmでpF2.9、深さ40cmでpF2.4、深さ60cmでpF2.6であり、乾燥傾向となっています。

3 生育概況 (8月16日現在：果樹研究所)

表1 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月16日調査)

果実肥大	モモ		ナシ				リンゴ			
	ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	64.7	67.2	62.8	79.0	60.5	69.2	68.0	79.8	65.1	72.8
平年比(%)	100	100	100	102	96	97	96	98	101	102

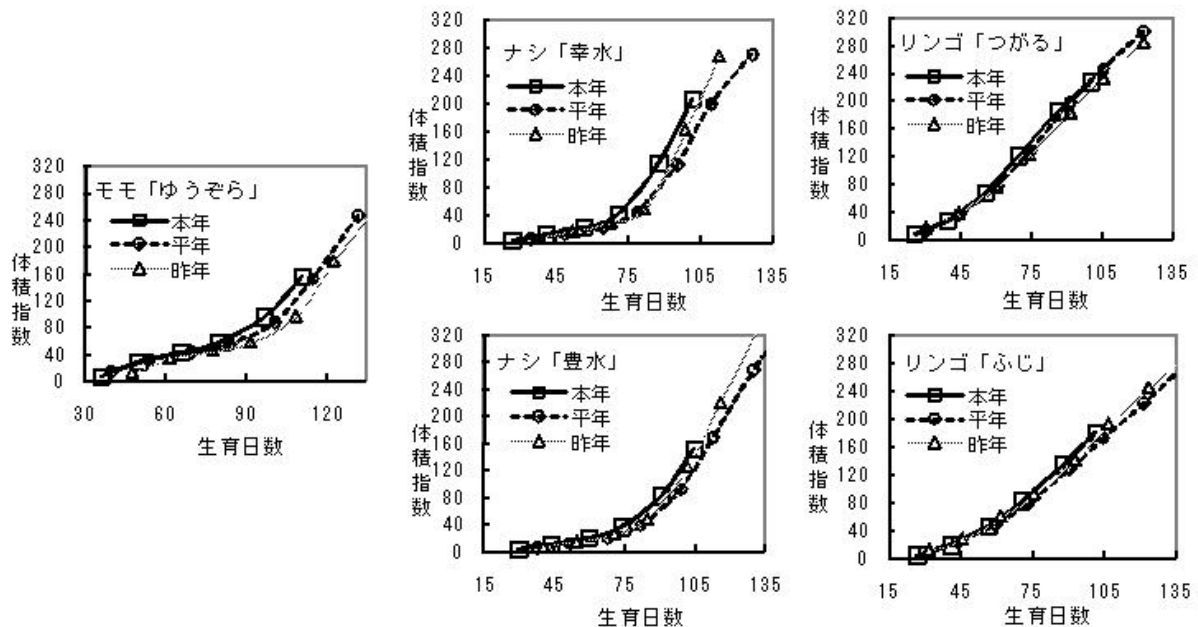


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所 8月16日調査)

(1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は平年比100%と平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では、平年よりやや大きい状況です。

「あかつき」の収穫始めは8月3日で平年並み、収穫盛りは8月6日で平年より1日早まりました。果実の大きさは279gと平年より大きく、糖度は13.9で平年より高い状況でした。

「白鳳」の収穫始めは8月5日、収穫盛りは8月9日で平年より3日遅れました。果実の大きさは319gと平年より大きく、糖度は11.9で平年並みでした。

表2 モモの主要品種の収穫期と果実品質（果樹研究所調査）

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
白鳳	8/5	8/2	7/27	8/9	8/6	7/31	8/16	8/10	8/3	319	252	329	11.9	11.7	11.6
あかつき	8/3	8/3	7/28	8/6	8/7	7/31	8/12	8/12	8/6	279	243	319	13.9	12.6	11.7
川中島白桃	未	8/25	8/17	未	8/28	8/20	未	8/31	8/25	未	306	367	未	12.7	12.8
ゆうぞら	未	9/1	8/25	未	9/5	8/31	未	9/9	9/7	未	292	397	未	12.6	12.3

※ 未は未確定

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は平年比100~102%とほぼ平年並み、「豊水」は平年比96~97%とやや小さい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

「幸水」の果実成熟（満開後100日比較）は、果実硬度の低下は遅れていますが、糖度や果皮中のクロロフィル含量は平年並みの状況でした。

果樹研究所によると、「幸水」の収穫期は平年より5日遅いと予測されています。

(3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は平年比96~98%とやや小さく、「ふじ」は平年比101~102%とほぼ平年並みの状況です。果実の生育日数による比較では、「つがる」はほぼ平年並み、「ふじ」は平年よりやや大きい状況です。

「つがる」の果実成熟（満開後97日比較）は、果肉硬度やリンゴ酸はほぼ平年並ですが、デンプンの減少や糖度の上昇は平年よりやや進んでいます。

(4) ブドウ

「あづましずく」の果実品質（8月10日現在）は、果皮の着色は昨年より遅れているものの、糖度は17.0と昨年より高い状況でした。また、酒石酸は昨年とほぼ同程度でした。

「巨峰」（無核栽培）の果実成熟（8月13日現在）は、糖度、果皮色、酒石酸ともに、過去3年の平均と概ね同様に経過しています。

4 栽培管理上の留意点

(1) 土壌の乾燥対策

ア かん水

ほ場の乾燥状態を確認し、乾燥している場合には積極的にかん水を実施しましょう。

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度です。1回のかん水は25～30mm(10a当たり25～30t)を目安とし、5～7日間隔で実施します。また、保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくし、かん水間隔を短くすると効果的です。

なお、モモでは収穫5～7日前からのかん水は糖度低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

イ 草刈り、マルチ

草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを実施しましょう。また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。

(2) モモ

ア 中～晩生品種の収穫

中～晩生品種の収穫期は、概ね平年並みに推移すると予想されます。適期収穫に努めましょう。

イ 晩生品種の収穫前管理

「川中島白桃」等の晩生種については、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

(3) ナシ

ア 「幸水」収穫

適期収穫に心がけましょう。「幸水」では、降雨等により土壌水分が急激に増加すると、果実の成熟が進む（特に、収穫盛期以降）ことがあるので、収穫が遅れないように注意しましょう。また、収穫時の果実温が高いと果肉軟化につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管するように心がけましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多にならないように注意し、適正着果に心がけましょう。

(4) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施します。気温が高い日が続く場合には日焼け果の発生が心配されるので、果そう葉と新梢葉の2回に分けて摘葉を実施しましょう。

イ 修正摘果

中晩生品種については、果実の大きさ、果形、サビ、日焼け症状に注意して修正摘果を実施しましょう。

ウ 早生種の収穫

「つがる」では、今後の気温が高温で推移したり降雨が続いた場合、果実の成熟が促進されることがあるので、気象の推移に注意し、地色の変化や果肉硬度を考慮して適期収穫に心がけましょう。

(5) ブドウ

ア 収穫適期の把握

収穫時期は、樹勢や房型、着房数に影響されます。果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫に心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫は、果実温の低い早朝に実施しましょう。また、収穫～調製の際には、脱粒したり、花粉が落ちないように果房を丁寧に取り扱しましょう。

5 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ斑点落葉病、褐斑病、炭疽病

斑点落葉病は、多湿条件が続くと発生が増加するので、防除を徹底しましょう。また、褐斑病および炭疽病の感染、発病が増加する時期となるので、防除を徹底しましょう。

イ モモ灰星病

降雨により感染が助長されるため、晩生種に対する防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第5世代の防除適期は、8月5半旬頃と予想されます。発生が多い園では、防除を徹底してください。近隣に放任園がある場合は、特に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

第4世代の防除適期は、平年並の8月6半旬～9月1半旬頃と予想されます。第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するので、防除を徹底しましょう。

ウ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に1～2頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。